

第 12 回研究会 報告

○日時：2013 年 1 月 30 日（水）

○参加者：弓野先生，塩田先生，山本さん，山口さん，酒井（報告者）

○報告：

第 12 回研究会では，イギリスの創造性教育の報告書を読みつつ，創造性のあり方についての検討を行った。内容としては，主に，小学校低学年における詩の作成とダンスの表現についての検討を行った。以下に検討を行った際のメモを挙げる。

○第 12 回創造性研究会メモ

- ・算数，数学においては第三者に言語活動を通じて，表現を行うことが重要になってくる。
- ・芸術の中でも，コンセプトを表現できないものは創造的なのか。
→当時の時代では創造的であっても，時代の流れに生じて一般的なものになっていく。
しかし，その中でも落差の大きいものが時代を超えて受け入れられている。
- ・言語化して説明することが重要である。

○NACCCE が定義した創造性について

1. 創造性は想像的な思考や行動を常に含む。
2. 全般的なこの創造的な活動は目的的であるもの，つまり，目標の達成にまっすぐつながることである。
3. これらの過程は独創的（その子どもにとって）な何かを生み出さなければならない。
4. その成果は目標についての価値であるものでなければならない。